

# もっと知りたい

## 武者小路実篤

### 詩2

### がんばって!

武者むしや小路こうじ実篤まねあつは、元気なときも詩を書きましたが、自分が元気になるなりたいときも、やっぱり詩を書きました。

そんな実篤の詩は、私たちの肩かたをポンとたたいてくれる、応援歌おうえんのようです。

実篤の詩で、あなたも元気を出して、がんばってみませんか。

#### 夏が来た

夏が来た

元気だせ

元気だせ

草や、

植物の

元気なことはどうだ

夏は

元気の親玉おやだまだ

生命いのちの王様おうさまだ

負まけてはいられない。

元気だせ

元気だせ。

#### 身体中が

身体中からだじゅうが元気で一ぱいだ。

俺おれの思おもったことは何でも出で来る。

そんな気がする。



この道 昭和42年

実篤はよく子供こどもや孫まじに「元気か。いばってるか。」と声をかけたそうです。『いばってるか』は、「いじけていないか」という意味です。しよんほりしていると、何にもできないような気がしてしまうでしょう。太陽あを浴あびてぐんぐん育つ自然せいの生命いのち力ちからを見習みならって、まず元気を出しましょう。元気が出たら、やりたいことがいっぱいありますよ。

## 努力

毎日毎日

同じ生活をしている

自分の仕事にとつかれている

うまくゆく時も

うまくゆかぬ時もある

運のいい時も

わるい時もある

うまい話はあるわけではない

私は

こつこつと自分の仕事をしている

その内に自分の努力は

見えない内に段々ものになる

沈黙の一年の努力

三年の努力 五年 十年

二十年 三十年の努力

誰にも見えない努力

だがその努力こそ

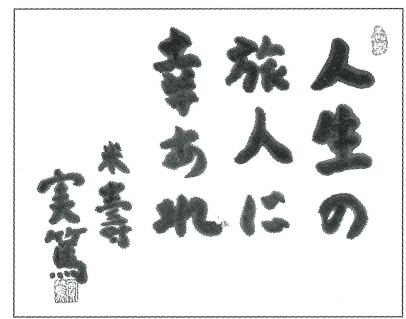
自分を段々ものにするのだ

## 疲れたら

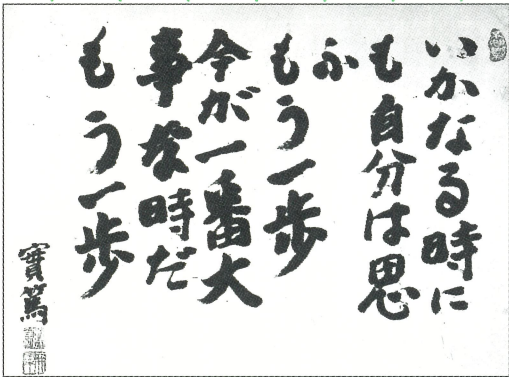
疲れたら休み

元気になったら又働く

春の日



「人生の旅人」 昭和47年



「もう一歩」 昭和25~30年

どんなことでも、すぐにできるようにはなれません。

実篤は小学生の時、作文と絵と習字が苦手でした。そんな実篤が作家で画家になったのですから、ずっとこつこつ努力してきたのでしょう。「努力」は79歳の時の詩。実感がこもっていますね。

夢や目標に向って、旅のように長い道のりを進んで行くには、がんばりすぎないで、疲れたら無理せず休むことも大切。そうして、力を蓄えましょう。大事なときにがんばれるように。

◆夏が来た

(「雑三百六十五」より 大正9年7月 曠野社刊)

◆身体中が

(「改造」大正9年4月号より)

◆努力

(「武者小路実篤詩集」より 昭和39年4月 大和書房刊)

◆疲れたら

(「改造」大正9年4月号より)